

つくろう 伸ばそう 鹿沼の文化

No.182

発行人 鹿沼市文化協会
発行責任者 会長 鈴木 貢
編集委員会 委員長 小林 夏江
印刷所 晃南印刷(株)

―第47回鹿沼市民文化祭開幕式報告― 鹿沼市民文化祭開幕式アトラクション・鹿沼市文化協会第15回文化セミナー 「みんなで作る鹿沼の文化財」

第47回鹿沼市民文化祭の開幕式を9月27日(土)にかねまケーブルテレビ(市民文化センター)小ホールにて開催いたしました。当日は秋の彼岸を過ぎても暑さが残る日差しの中でしたが、沢山のお客様にご来場いただきました。会場入り口に設けられた鹿沼市茶華道協会茶道部による呈茶席では、ご来場された皆様が歓談され活気のあるスタートとなりました。



松井正一 鹿沼市長



谷中恵子市議会議長



鈴木貢文化協会会長

開幕式では、主催者の松井正一鹿沼市長、鈴木貢文化祭実行委員会会長が、鹿沼で最大の文化の祭典である鹿沼市民文化祭の開幕を宣言しました。次に、来賓を代表して谷中恵子市議会議長、神谷幸伸県議会議員、片柳伸一商工会議所会頭(代理岩本泰史副会頭)よりご



神谷幸伸県議会議員

祝辞をいただきました。開幕式後のアトラクション及び鹿沼市文化協会文化セミナーは「みんなで作る鹿沼の文化財」として、仏像修理工房の「三乗堂」と鹿沼市文化課文化財係の堀野周平氏の講演を開催しました。

日光山輪王寺の修理現場で出会った井村香澄氏、中愛氏、森崎礼子氏が鹿沼市で設立した「三乗堂」は、県内外の文財の修理を行っております。お三方は、「地域の仏像修理そして守り繋いでいく

こと」と題し、今までに修理してきた仏像について丁寧の説明し、地域に残っている仏像を後世に継承する意義についてお話をしてくださいました。



呈茶席



市民文化祭開幕式式典

また、鹿沼市の文化財の調査保存に従事され、市民学芸員調査会の講師も務めておられる堀野周平氏は、「板荷久保田



「板荷久保田堀〜」堀野周平氏



「地域の仏像修理〜」三乗堂

堀から文化財を考える」と題し、随想舎歴史文研出版奨励賞受賞をされた著書『日光開墾仕法と栃木の近代』の内容を基にした分かり易い講話をしてくださいました。観客席からの「講師の方々にとっての文化財とは」との質問に、「地域やコミュニティの未来を考えるために不可欠な



講演者と文化協会鈴木会長

ご来場されたお客様から「とても勉強になった。良い講演会だった。」との多くのお声をお寄せいただきました。文化セミナーの開催にあたり、スタッフの皆さまの力強い協力に感謝いたします。

(事務局 福田 由子)

目次	
◆◆◆◆◆	
第47回鹿沼市民文化祭開幕式報告	1
文化の風薫る鹿沼を目指して！三曲演奏とは	2
「能」の魅力	3
◆◆◆◆◆	
二人の道	3
令和7年度視察研修報告	4
編集後記	4

文化の風薫る鹿沼を目指して！

鹿沼混声合唱団 副団長 渡邊 克明

日本には、「国民スポーツ大会」と双璧をなすように「国民文化祭」があります。それぞれ毎年工夫がされているものの、スポーツ大会の華やかさ、関係人口の多さには文化祭はかなわない感があります。

特にスポーツには、それぞれの分野でスター選手が存在し、特に興味のない人まで影響を受けているようです。

先頃、9月の「東京世界陸上」で、日本人初の400mに6位で入賞した中島佑気ジョセフ選手は、日本文学を好み、好きな言葉を走る力に変えていると言います。更に、スポーツ選手が、本番前に音楽を聴いて心を落ち着かせることは良く知られています。

音楽は、選手がパフォーマンスを十分発揮するために、心を安定させているのです。

選手の実力を支え、スポーツ選手の魅力の人々に広く知らせていることは、文化に基づく力であると思います。ここで、やや気になる点を一つ。社会学的に見ると文明の衰退は、伝統を学ばず、自分のことばかりで隣人や社会を考えない世代によって起こったという事です。これによりローマ帝国や大英帝国、そして今のアメリカも衰退してきたとみているようです。これが、今、日本の地域社会で起きている大変難しい問題であると思います。

しかし、こうしたことの1助



鹿沼混声合唱団 第27回定期演奏会へ向けて
令和6年3月

に、文化協会の団体役員等は、なれるのではないかと思えます。それぞれの団体等が、技量や知識を高めながら工夫をし、仲良く継続していけるのなら、それが鹿沼の文化発展の追い風になると思います。

私も、鹿沼混声合唱団において、他の団体等の皆様とともに、文化の風薫る鹿沼を目指して、歩んでいきたいと考えています。

三曲演奏とは

鹿沼三曲会 代表 神永 陽韻

三曲とは江戸時代から現代にかけて、日本の音楽として最も普及している三種の音楽の総称です。「箏曲」といわれる箏（こと）の音楽と、「地歌（じうた）」といわれる三味線（しゃみせん）の音楽と、それに「尺八（しゃくはち）」です。「箏曲」にしても、「地歌」にしても、箏と三味線との合奏に、もう一つの楽器として尺八が加えられることがあり、その場合は、特に「三曲合奏」といっています。

三曲の三つの楽器には特徴があります。箏は「爪」の当て方や力の入れ方、演奏する位置によって音色が変わります。左手で弦を押さえたり、特定の場所を軽く触れたりします。三味線はバランスをとるのが難しく、押さえる左手の指の位置が少しでもずれると音程が狂います。撥を下ろ

す位置にも注意が必要です。尺八には独特の奏法や技術が数多く存在し、正しい姿勢や息の使い方、音域の広さなどが要求されます。先ずは音を出すのがとても大変です。

合奏の時は、お互いの音色を聴き、呼吸を合わせて演奏することの難しさや、楽しさを日々感じています。同じ曲を繰り返し演奏しても、演奏者が異なるとまた新鮮な気持ちで演奏することが出来ます。

現代は時間の流れがとても早いと感じます。流行りの曲もテンポが速い曲が多く、そのような曲がとても人気のようなのです。地唄の古典曲では、短いもので10分程度、長い曲で35分を超える大曲もあります。

慌ただしい日常から離れ、演奏に集中する時間はとても贅沢なものです。合奏演奏が終

わると自分の反省はもちろん、各自の良かった所について語り合うのかけがえのない時間です。相手のことも考えながらでないと良い演奏にはなりません。だからこそ会員の皆様同士、楽しい時間を過ごすことができています。



第35回鹿沼市民文化祭三曲大会 神永陽韻(中央)

「能」の魅力

栃木県喜多流縁願会 会長 原田 寛子

「そこでは美さえ究極の目的ではなく、いわば美を通じての現世の一时的な出来事を超えて永遠の真理に到達しようとするのが能ともいえるだろう」(ドナルド・キーン)

宇都宮文化会館で2年に一度開催される「宇都宮能」が、今年は私の流儀である喜多流の番であった。プログラ

ム作成にあたって、表紙の裏面にドナルド・キーン氏の前記の言葉を掲載させていただいた。日本に帰化した日本文学者キーン先生の、これが能に対する賛辞である。

能には幽霊が登場する。もちろん、一般の演劇のように現在進行形で進んでいく能もあるが、天才世阿弥の創作によるものは、シテ(主人公)が幽霊というものが多いのである。それもストーリーを追うというよりも、シテの想い、心の奥底

の情念をいかに美しく描き出すかという手法を取っている。エッセンシャルなものだけ、つまり、シテの情念が舞台の上で舞っていると言ってもいいかもしれない。そうなる写真と実を離れざるを得ないし、怒り、悲しみ、嫉妬などの負の感情も、舞台の上で浄化、鎮魂される。

また能のもうひとつの特色は、時間・空間を超越してしまっていることである。背景の鏡板が老松という舞台は、いつ・どここの場所

にもなり、時間の経過も自由である。

そんなところが、キーン先生をして「永遠の真理に到達しようとする」と言わしめたのでは、と思う。

鹿沼喜多流縁願会は、年間5回の謡・仕舞の会に参加している。他の流儀(宝生・観世)も同様であるが、高齢化により、流友は減少傾向で、若い方々の入会を切望している。今、歌舞伎界を描いた映画「国宝」が大ヒット。それに伴い、本も歌舞伎もフイーバー中だという。吉田修一先生、今度は能関係の小説をお願いできないか、と考える今日この頃である。



宇都宮能「弱法師」シテ栗谷明生

二人の道

年を重ねた人生は、宝物だ。

コロナ明けの今日、連日の異常な暑さ!!

猛暑・酷暑・激暑。言葉にならない程の暑さに明け暮れた2025年!! 熱風に汗だくになりつつ、厳しい日本民謡協会の認定試験に挑戦した我が仲間、十年生と九年生だ。そして、いつも心をひとつにし県内外のイベントやボランティアで各地を訪れ、支援協力をしてくれている。感謝! 彼らは、受験を目ざし、リズム・音の流れ・姿勢・力の配分など、民謡太鼓の細やかさ・大らかさ等を学び、頑張り抜いた。

8月30日の試験当日は快晴で暑い日となった。試験会場の水戸市内原市民センターは、下見済みなので、車中はリラックスしドライブを耳に早目に会場入りの。慎重な面持ちの

前澤会 代表 前澤 松代

二人は、吸い込まれる様に会場へ、ランクにに応じて面接から始まった。落ち着いて笑顔で向かっていった。小さく漏れてくる課題曲の流れに、待つ身の私は緊張していた。技よし度胸よしの良好な出来ばえに絶対合格と信じていた。

公認教授、公認助教

授という資格は、民謡界で羽ばたく貴重な宝だ。合格の知らせはまだまだだが、私の判定は当然合格間違いなし。この体験を生きかし、更に前進して欲しい。帰り道においしいラーメンを食べて満足。今後、技術向上!

礼儀を重んじ、伝統芸術芸能を大切に維持して人々に安らぎと、夢・笑顔を届けて欲しいと思う。私自身の長い間の苦しい修業時代を偲ぶ時間だった。心に残る小さな夢を開花させたい。今回の試験に臨んだ前澤会のSアンドS、佐藤・塩入の二人を応援していきたいと思う。

民謡に励み、太鼓道に励み、人生を幅広く楽しんで欲しい。



第47回鹿沼市民文化祭民謡民舞大会 前澤松代

東京方面視察研修報告

視察研修推進委員 高橋 進

9月11日朝、首都高速に入るとビル群の上には秋の気配を感じる高い空がありました。

到着した国会議事堂は、地下1階から3階建てだが吹き抜け部分は、6階建て相当の高さです。階段また階段を上り下りしながら、委員会室や本会議場、法隆寺の五重の塔が収まるという大きな吹き抜けの中央広場など、テレビや写真では味わえない重厚さや迫力を

実感できました。白亜の殿堂を背に記念写真を撮るため、小学生の団体に続いて、順番を待っていた時は、猛烈な暑さでした。国会議員の方々も、これくらいの熱さで、国民ファーストの議論を戦わせて欲しいものだと思います。

昼食は老舗料亭で美味しいアサリセイロを戴きました。その後、参加者38名中、有志8名ほどが、暑さに負け

じと往復20分歩き、学問の神様の菅原道真公を祀る亀戸天神を参拝し、鹿沼市文化協会の発展をお願いしました。

次の見学先の「すみだ北斎美術館」は、大河ドラマ『べらぼう』でも話題になっていたので、外国人を含む多くの見学者がいました。

次に、一葉記念館を見るために移動し、バスを降りて5〜6分歩いた行き帰りは、大雨で足元が濡れ大変でした。一葉は、17歳で父を亡くし、戸主として生活を支えつつ「たけくらべ」などの小説を書き、24歳で没するまでに、五千円札の肖像画になるほどの立派な仕事をしました。その一端を、毛筆書きの日記や自筆原稿から、肌で感じる事ができ、よかったです。

帰宅後、ニュースを見ると、東京南部は道路冠水や、羽田空港を閉鎖するほどの豪雨だったと知り、それを免れた私たちは、「ありがたやまのし

あわせなすび」の研修だったと、薦重の言葉借りて、ご報告いたします。



鹿沼市文化協会令和7年度視察研修
国会議事堂 令和7年9月11日(木)



「ありがたやまのしあわせなすび」の研修だったと、薦重の言葉借りて、ご報告いたします。



台東区一葉記念館



すみだ北斎美術館



すみだ北斎美術館



国会議事堂衆議院

編集後記

9月27日鹿沼市民文化祭開幕式が行われ、仏像修理工房三乗堂様「地域の仏像修理そして守り繋いでいくこと」と堀野周平氏の「板荷久保田堀から文化財を考える」という講話がありました。その講話は「板荷村はお金でお米を買っていたが、米の値が上がり、幕末に田を開発しようという機運が高まり、混乱期の明治2年久保田讓之助が22歳の若さで『報徳仕法』により用水路を開削した。」という話でした。

地となり多くの人が米を収穫でき、私の家もここに田を持つことができました。この用水路は下流の吉良堀に続き、下板荷の人達の米作りにも役立っています。

このように、堀は村人の命を助ける重要な役割を果たしています。久保田讓之助が開削したと聞いていたが、この度、歴史的に価値があり、鹿沼市の文化財であることを改めて知って、親しんでいた堀を大変誇りに思いました。

10月11・12日はユネスコ無形文化遺産である秋まつりが賑やかに行われました。私は茶席の当番で、心を込めて一服を楽しんでいただきました。茶道は日本の伝統文化であり、大切に継承していきたいと思っています。

また、私達が所属している鹿沼市文化協会の各部門も伝統文化の文化財だと思います。会員の皆様が発言活動を引き継いでいくことは文化協会の発展に繋がっています。

大貫 宗正

《編集委員会》

小林 夏江 板橋 和子
寺崎 昌子 斎藤千恵子
大貫 宗正